

# 和良の郷だより

紅梅号

和良おこし協議会発行



# 未来へのエール

## 成人式後にわらおこしで同窓会

1月8日(日曜日)は、郡上市の「成人式」を終えた和良、西和良の皆さんが、今年も「わらおこし」に集まってくれました。



(集った同窓生が笑顔で記念撮影)

てが、「新成人」として誕生することとなりました。この日集まったのは平成14年度にふるさとで生まれた20歳を迎えた18人のうち、15人です。今年もアンケートにご協力いただき、みなさんの暮らしと未来に向けてのエールをいただきました。

令和4年4月1日からは成年年齢が引き下げられ、「年齢18歳をもって、成年とする」ことになりました。そのため、令和4年4月1日以降の1年間は、新たに満18歳、19歳、20歳になる人たちがすべ

す。現在の居住地ですが、和良、西和良に居る方は5名、県内2名、愛知5名、京都・東京に1名ずつでした。故郷に戻る回数は、月1回から、年に6回1名、年4回4名、年3回2名、年2回2名、他

0回5名の方です。

「将来は故郷に住みたいですか?」の問いには、住みたい3名、住みたくない2名、わからない10名で、現在地元

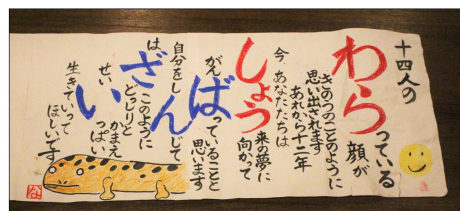
に居る方も仕事の都合でどうなるのかわからない事もあったり、目指す仕事の都合で、どうなるのかわからないといった答えや、まだ考えられないとの答えがありました。住みたくない理由に、交通の便が悪い事、海外に行くから、などの答えがありました。地元

まつりの充実があります。他の答えに、自然体験イベントや移住PRイベントの開催を望む声もありました。

「未来に向けたエール」には、各自で目標や夢に向かって自身を奮い立たせる言葉が多くありました。故郷に向けては、今後人口減少が進んでいくので、若者が帰ってこられる環境づくりや、移住する人を多く迎えられるようにしてほしいと、ほとんどの方が答えていました。

「ふるさとの良い所」は、人の好き、自然環境の良さ、人とのつながりの良さを上げる回答がほとんどの方になりました。「ふるさとの悪い所」は、交通の不便さ、商業施設が少ないなど買物物が不便と、答えが多く、他には、若者がいない、夜が暗い、観光客が少ないとの答えも見られました。悪い所が思いつかないですとの答えには嬉しい思いをさせていただきました。

「興味のあるイベント」には、ライブやスノボ関係のイベント開催を望む答えは毎年見られますが、次いで和良鮎



(思い出のメッセージ)



(ゴールを目指してスタート)

和良町内外から116名の参加者が新春の町内を走り抜きました。今年で48回目の開催となりますが、毎年参加の方もおられたり、初めての方もおり、初めの方もおられ、たいへん盛り上がり、ゴール前のきつい坂を上りながらも充実した顔や、笑顔が見られます。この企画は、郡上陣屋組の中学生のメンバーたちによる和太鼓の演奏もありました。

## ニューイヤーズマラソン

1月1日(元日)は、和良で新年の恒例となりました「ニューイヤーズマラソン」が開催されました。

この日は心配された雪も降らず、良いお天気で気温は低いものの日差しの中で暖かさを感じるほどでした。新春のマラソンには絶好の日となりました。

# 北大卒論発表会

1月21日(土曜日)、北海道大学林ゼミ

の学生さんたちが「わらおこし」にて卒業論文、修士論文の発表を行ってくれました。これは、大学生の研究から地域づくりに関して参考になる事やヒントを得て、地域づくりを改めて考える機会となります。林先生は以前は岐阜大学に居られて、和良での地域実習や卒論発表会を開催していただいておりますが、引き続き和良おこし協議会の地域づくりへのご指導いただいております。以前はオンラインでの発表会を開催することもありましたが、今年は「わらおこし」を会場にオンラインとリアルとでの開催となりました。



(発表した学生さん達)

この日の発表は学生5名と、最後に林先生のミニ講義といった組み立てです。午後1時開始で5時終了を予定しておりましたが、活発な意見交換もあり、午後5時半ごろに終了となりました。長時間となりましたが、みなさんにはお付き合いいただき、大変有意義な時間となりました。

以下に発表内容に関して少し触れさせていただきます。詳細に関して多くは記載し

ませんが、発表内容をまとめたものは今後「わらおこし」にてご覧いただけるように準備しますので、ご興味のある方はお気軽にお越しいただけたらと思います。

## 〈卒業論文発表〉

・坂本正優・近隣住民による空き家解体除去手法の有効性と課題ー室蘭市・米沢市を事例にー

活用が困難で早急な対応の求められる危険空き家の除却について近隣住民による解体手法は、流動性が低く、被害が拡大しやすい立地で有効に機能する。加えて、個人による解体では駐車場などの需要が、町内会による解体では問題意識を共有できる立地であることが求められる。

・木村奎輝・生活空間に近接する新たな観光スポットへの行政の対応と住民の向き合い方を考えるー北海道豊頃町大津海岸におけるジューリアーアイヌ現象を事例にー

北海道豊頃町大津海岸の「ジューリアーアイヌ」を対象に、長らく観光地として注目を浴びることのなかった地域が、ある報道をきっかけに観光客が多く訪れるようになったという新たに出現した観光スポットを取り上げる。

・川井悠輝・外部人材と地域を結び媒介としてのふるさとテレワークとその成立条件ーしれとこ斜里テレワーク事業を事例としてー

ふるさとテレワークによるメリットは明らかになっており、その活用方法も指摘されつつある。地域住民側が主体となってバランスを取りながら外部人材を活用することが有効である。テレワークが普及した社会

において、ふるさとテレワークを推進することが新たな地域づくりの形の有効打となりうる。

## 〈修士論文発表〉

・多々良啓・移住者と地区住民間にみられる関わり・支援とその要因ー宮城県丸森町筆甫地区を事例にー

住民と移住者、移住者間での関わりと支援の実態を明らかにする。支援が広がり、促進される仕組みを人的、環境的、文化的側面から考察する。

・胡子劼・中国におけるオタクのオンラインコミュニティの現状とメンバーの関係性の規定要因ー「京ア二語料」を事例としてー

中国においても、2005年から趣味縁としてのオンラインのコミュニティに注目が集まるようになった。それは、中国語で「網絡趣縁群体」と称される。グループのチャットの会話を通じて、相手の趣味などのことを大まかに知ることができると、気が合い、双方の趣味が重なる場合、関係がさらに発展していた。

発表後は、林先生のミニ講義の時間です。

林ゼミは和良町と研究・教育・地域連携を行っており、教育活動として今年度行った商品開発・販売についてお話がありました。

この日の研究や講義から地域づくりのヒントをたくさんいただきました。北海道より来られた林先生、ゼミ生との出会いと貴重な体験をさせていただいたことに感謝したいと思います。そして来年も、その先もこのような機会をもちたいと思います。

## イベント掲示板

### 地域づくり講演会

ここに暮らす事、他出子との気持ちは？モリ一度考えてみたい。

徳野貞雄氏

とき：2月5日(日)午後2時から  
場所：わらおこし (札幌農科大学和良町下洞 554)

### 市民協働センター相談日

とき：2月20日(月)  
10時~15時  
ところ：わらおこし(下洞554)  
相談員：大中センター長

## 和良町の人口

令和5年1月1日現在 (カッコ内は前月比)

